

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】令和 3 年 3 月 11 日 (2021.3.11)

【公開番号】特開 2020-46367 (P2020-46367A)
 【公開日】令和 2 年 3 月 26 日 (2020.3.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-012
 【出願番号】特願 2018-176578 (P2018-176578)
 【国際特許分類】

G 2 1 C 15/18 (2006.01)

G 2 1 C 9/004 (2006.01)

G 2 1 C 9/06 (2006.01)

【 F I 】

G 2 1 C 15/18 B

G 2 1 C 15/18 A

G 2 1 C 9/004

G 2 1 C 9/06

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 1 月 25 日 (2021.1.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

また、ガス分離膜 20 として水分子との親和性で選択的にガスを分離する高分子膜で説明したが、水分子は窒素分子や酸素分子よりも小さいため、分子ふるいの原理を利用して蒸気を選択的に透過するガス分離膜 20 を用いてもよい。また、本実施の形態 1 では、ドレン管 8 に逆止弁 9 を設置しているが、水が流入した時に弁が開くスチームトラップ等を用いてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

原子力プラントにおいて配管破断等により圧力容器 51 から蒸気が流出する事故の場合、残留熱除去系ポンプ 61 を起動してバルブ 66 を開け、炉心注水用配管 63 を通してウェットウェル 54 の水 55 を圧力容器 51 に注水し、崩壊熱が発生している炉心 50 を冷却する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

冷却水循環用配管 74 には冷却水流量を調整する流量調整バルブ 73 を設置している。熱交換器 71 には、海水供給ポンプ 72 を用いて海水等を供給し、凝縮器 1 でドライウェル 53 から取り除いた熱は、熱交換器 71 を経由して最終的に海に放出する。なお、熱交

換器 7 1 の熱交換量が十分であれば、海水に代えて空気等の他の冷却手段を用いても問題はない。また、ドレン管 8 は、凝縮器 1 から下方に向かって配置され、ドレン管 8 の出口はドライウェル 5 3 の床面付近に配置している。また、格納容器 5 2 内のガスが凝縮器 1 に逆流しないように、ドレン管 8 の途中に逆止弁 9 を設置している。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 7】

逆止弁 9 は ドレン管 8 に設定した水位が形成されないと開かないため、ドレン管 8 は水封されており、ドライウェル 5 3 にある窒素が ドレン管 8 を逆流して凝縮器 1 に流入することはない。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 7】

また、外部格納容器スプレイ用ポンプ 8 2 及び外部格納容器スプレイ用バルブ 8 4 は、外部格納容器スプレイ用配管 8 6 上に設けられ、外部格納容器スプレイ用配管 8 6 は、格納容器スプレイ用配管 6 4 に接続されている。